

センター試験 日本史B (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：6題	解答数：36問
難易度の変化（対昨年比）	○ 難化 ○ やや難化	○ ほぼ同じ ● やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年比）	○ 多い	● ほぼ同じ ○ 少ない
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評</p> <p>予想に反して、全体的に易しかった。正誤判定問題に関しては、誤りの部分が明確なものが多かったことも易化した一因といえよう。図版問題に関しては、写真・グラフ・表・地図がバランスよく出題された。グラフも表も、読み取りやすいものであった。未見史料（第4問のB、第5問の問4）が2題出題されているが、じっくりと読解すれば難なく解ける問題である。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	現代社会の中の文化財	12点	「文化財」をテーマにした問題。暮らしの中にある文化財をあげ、その意味や保存について考えさせる題材としているが、設問は雑題のようになっており、決して難しくはない。
第2問	古代の政治・社会・文化	18点	古代の社会経済分野である問1～3は受験生にとって、苦手意識を持つ分野であろう。しかし、きちんと理解している生徒にとっては、確実に得点できたはずである。ここが得点差のつくところであろう。
第3問	中世の政治・文化・外交	18点	銀閣の図版は頻出である。全体的に標準問題であったが、問6はやや細かいであろう。日明貿易に関しては2年連続（昨年は寧波の地図など）の出題であるが、中世の外交は頻出テーマである。
第4問	近世の政治・社会	17点	農具の図版が出題されたが、頻出の備中鍬と千歯扱であった。問4の身分の問題がやや難しかった。農書も作者の名前はなく17世紀後半に成立したという時期から、『農業全書』を選択させている。
第5問	明治期における日本の領土とその支配	12点	地図・グラフ・史料問題と視覚能力や分析、読解力を問う良問だった。問3・問4は知識ではなく、分析・読解力が問われており、ここで得点差がつくと考えられる。
第6問	市川房枝とその時代	23点	戦後史は3問（昨年は4問）であった。一般的な知識で解けるものではなく、学習量の差が物をいう問題である。用語の知識を問うものが多かったので、難しく感じた受験生もいたかもしれない。